

小倉記念病院 循環器内科だより

つなぐ

Vol.16

2017.6月

循環器内科部長 兵頭 真が
大切にしている一つの言葉がある。

彼は自治医科大卒業後、一般
内科医として9年間、地元の
在宅患者を訪問しながら、地
域医療に従事し続けた。ただ
その間も、カテーテル治療の研
鑽を積むため、毎週、中核病院
で行われる研修へ欠かさず足
を運んだ。

そんなある日、山奥の小さな集
落で末期がん患者を看取る瞬
間が訪れる。その患者は、最期の
声をふりしぼり、兵頭に一言だ
け言葉を残した。

「ありがとう」

それから10年目を迎え、悲願で
あった循環器内科医の第一歩を
当院から踏み出した。自分より
若い医師が、多くのカテーテル治
療を行うなか、9年の歳月を埋
めるように、全てを貪欲に取り
組んだ。医療を行う環境は変
わったが、変わらないものがあっ
た。それは、感謝の気持ち。

一般内科医として、小さな集落
を回りながら、患者一人ひとり
に向き合った日々を忘れては
いない。あの日の言葉が、医師と
しての誇りをつないでいる。

